

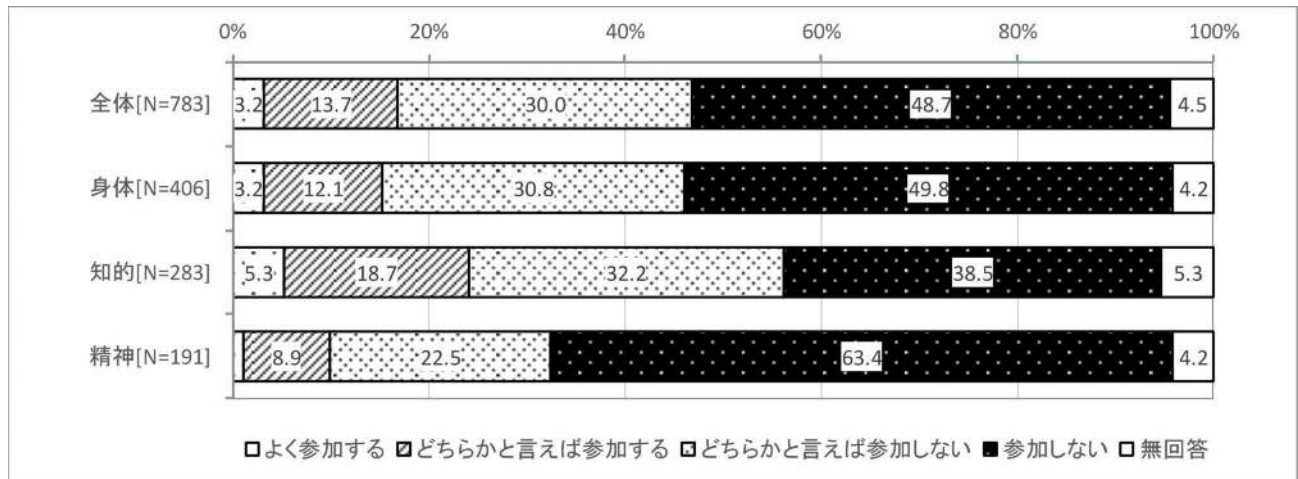
(10) 地域社会とのかかわりについて

① 地域の行事・活動への参加状況

地域の行事・活動への参加状況は、「参加しない」が48.7%、「どちらかと言えば参加しない」が30.0%となっています。参加するとの回答（「よく参加する」「どちらかと言えば参加する」の計）は2割弱にとどまります。

精神障がいのある人は「参加しない」の割合が高くなっています。

図表 99 地域の行事・活動への参加状況[N=783]



前回調査との比較では、精神障がいのある人で、地域の行事・活動へ参加すると回答した割合がやや低くなっています。

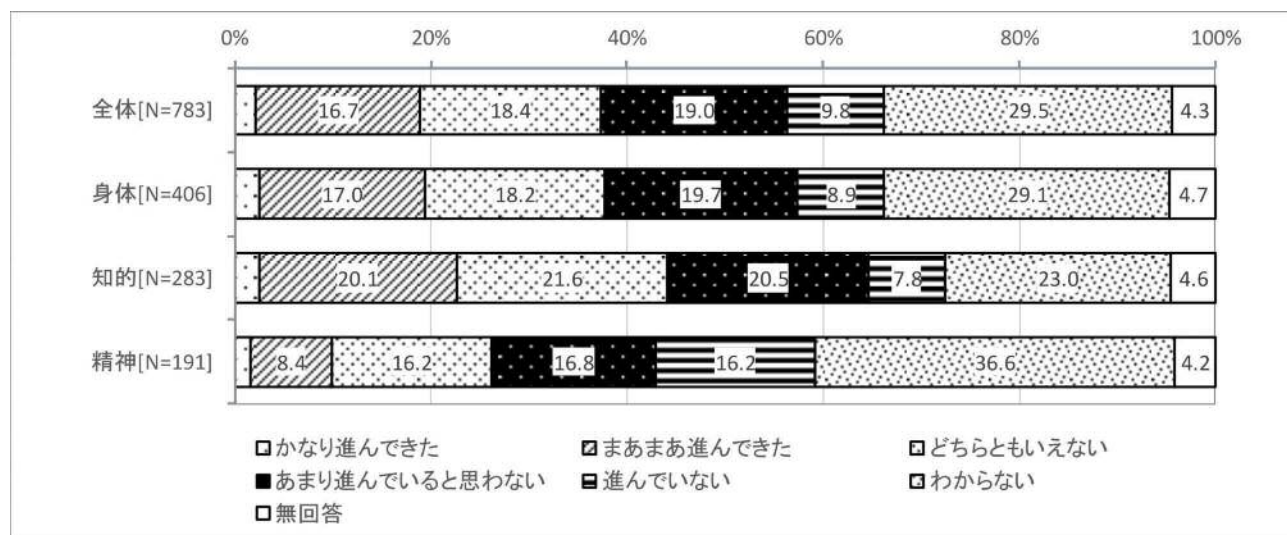
図表 100 地域の行事・活動への参加状況（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成 28年度	令和 元年度	平成 28年度	令和 元年度	平成 28年度	令和 元年度
N=	429	406	266	283	159	191
よく参加する	2.6	3.2	3.4	5.3	1.9	1.0
どちらかと言えば参加する	12.1	12.1	17.7	18.7	11.9	8.9
どちらかと言えば参加しない	30.3	30.8	38.3	32.2	22.0	22.5
参加しない	51.3	49.8	36.5	38.5	60.4	63.4
無回答	3.7	4.2	4.1	5.3	3.8	4.2

② 障がいのある人に対する地域の理解

障がいのある人に対する地域の理解については、「わからない」が29.5%、「あまり進んでいると思わない」が19.0%、「どちらともいえない」が18.4%、「まあまあ進んできた」が16.7%となっており、比較的認識が分散しています。

図表 101 障がいのある人に対する地域の理解[N=783]



前回調査と比較すると、精神障がいのある人は、地域の理解が進んできたと回答した人（「かなり進んできた」「まあまあ進んできた」と回答した人の合計）の割合が低くなっています。

図表 102 障がいのある人に対する地域の理解（前回調査との比較）

	身体		知的		精神	
	平成28年度	令和元年度	平成28年度	令和元年度	平成28年度	令和元年度
N=	429	406	266	283	159	191
かなり進んできた	0.7	2.5	2.6	2.5	1.9	1.6
まあまあ進んできた	18.2	17.0	16.9	20.1	13.8	8.4
どちらともいえない	22.1	18.2	19.2	21.6	20.1	16.2
あまり進んでいると思わない	14.7	19.7	19.5	20.5	16.4	16.8
進んでいない	10.7	8.9	14.7	7.8	13.8	16.2
わからない	29.4	29.1	22.9	23.0	30.2	36.6
無回答	4.2	4.7	4.1	4.6	3.8	4.2

③ 自宅・地域で生活するために必要なこと

自宅・地域で生活するために必要なことは、「生活するのに必要な収入が十分にあること」が47.3%、「安心して住み続けられる家があること」が36.9%、「主治医や医療機関が近くにあること」「家族と同居できること」がともに28.2%となっています。

知的障がいのある人は「昼間のサービスを提供する事業所などに通えること」「仲間と一緒に住める家（グループホームなど）があること」、精神障がいのある人は「生活するのに必要な収入が十分あること」「安心して相談できる相談員や相談窓口があること」の割合が高くなっています。

図表 103 自宅・地域で生活するために必要なこと[N=783]（5つまで回答）

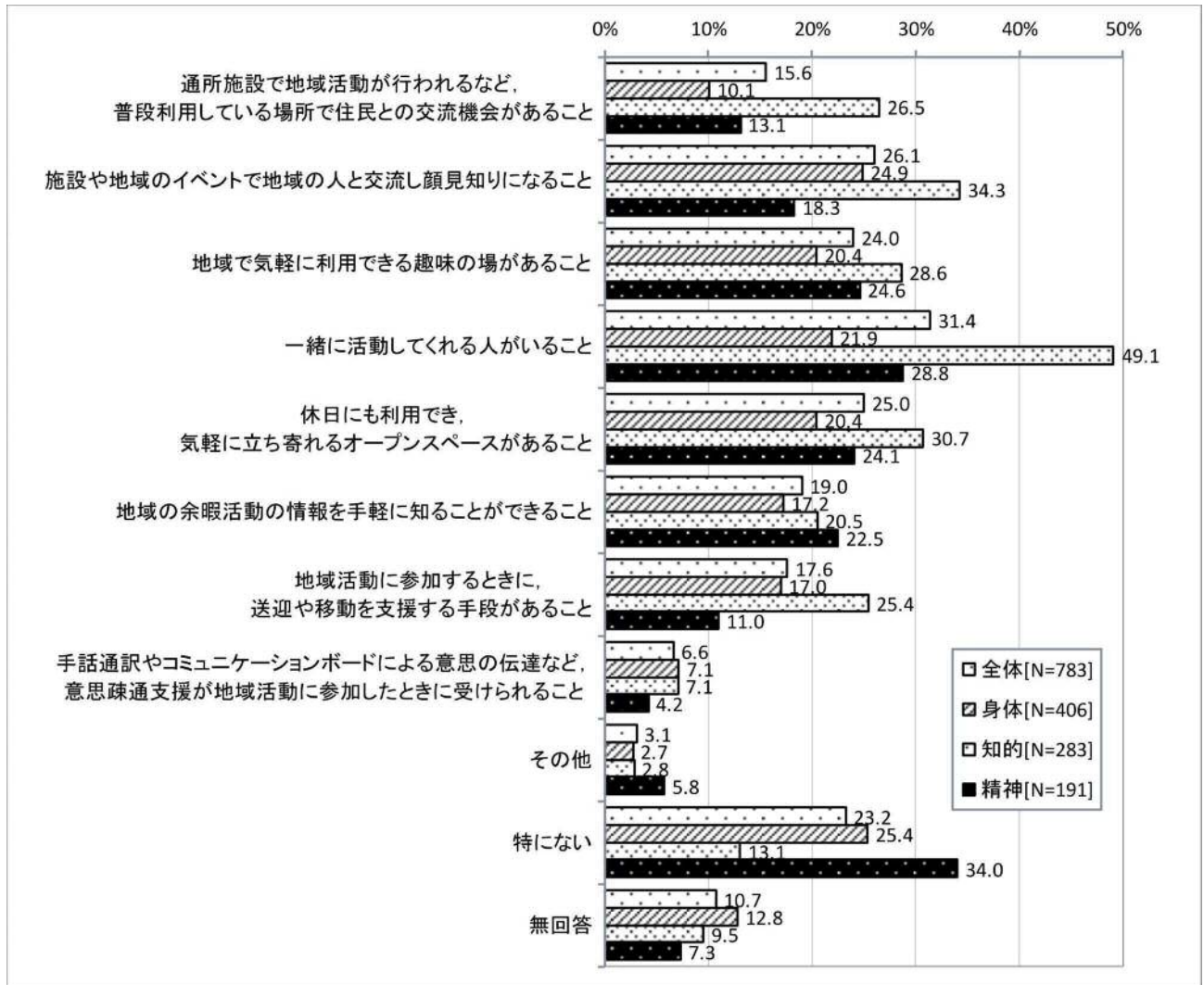
	全体	身体	知的	精神
N=	783	406	283	191
昼間の介護を頼める人がいること	6.4	6.9	9.9	3.1
夜間などの介護を頼める人がいること	8.0	9.1	11.3	3.1
主治医や医療機関が近くにあること	28.2	30.0	20.1	34.6
食事の心配をしなくていいこと(配食サービス)	18.0	15.8	20.1	20.9
掃除や洗濯などの家事の手伝いを頼める人がいること	15.5	15.0	16.3	17.8
昼間のサービスを提供する事業所などに通えること	11.7	6.2	22.6	11.5
必要ときに数日間、施設に泊まりに行くサービス(ショートステイ)が利用できること	9.3	6.4	17.0	6.8
医療機関・施設に通うための送迎が受けられること	14.6	17.5	15.9	10.5
リフト付自動車などを利用して外出できること	0.8	1.0	0.7	0.5
外出の際に介助する人(ガイドヘルパー)を頼めること	9.3	7.6	17.3	2.6
安心して相談できる相談員や相談窓口があること	27.3	21.2	30.0	40.3
各種サービス利用や手続きを一括して頼めること	17.0	14.0	16.6	23.0
生活するのに必要な収入が十分あること	47.3	43.6	39.9	61.8
金銭や財産管理を安心して任せられること	11.1	5.4	18.4	13.1
家の中の段差などが改修されること	3.7	5.2	0.7	2.6
近隣・地域が理解・協力してくれること	13.0	9.6	18.0	14.1
身近に話や相談、頼みごとのできる友人がいること	15.7	13.8	13.8	22.0
安心して住み続けられる家があること	36.9	36.7	31.1	43.5
仲間と一緒に住める家(グループホームなど)があること	10.3	5.9	21.6	2.1
家族と同居できること	28.2	29.3	29.7	21.5
その他	2.8	3.2	1.1	4.2
わからない	7.0	7.9	6.7	5.2
無回答	6.5	6.9	7.1	5.8

④ 地域活動に参加するために必要なこと

地域活動に参加するために必要なことは、「一緒に活動してくれる人がいること」が31.4%、「施設や地域のイベントで地域の人と交流し顔見知りになること」が26.1%、「休日にも利用でき、気軽に立ち寄れるオープンスペースがあること」が25.0%、「地域で気軽に利用できる趣味の場があること」が24.0%となっています。

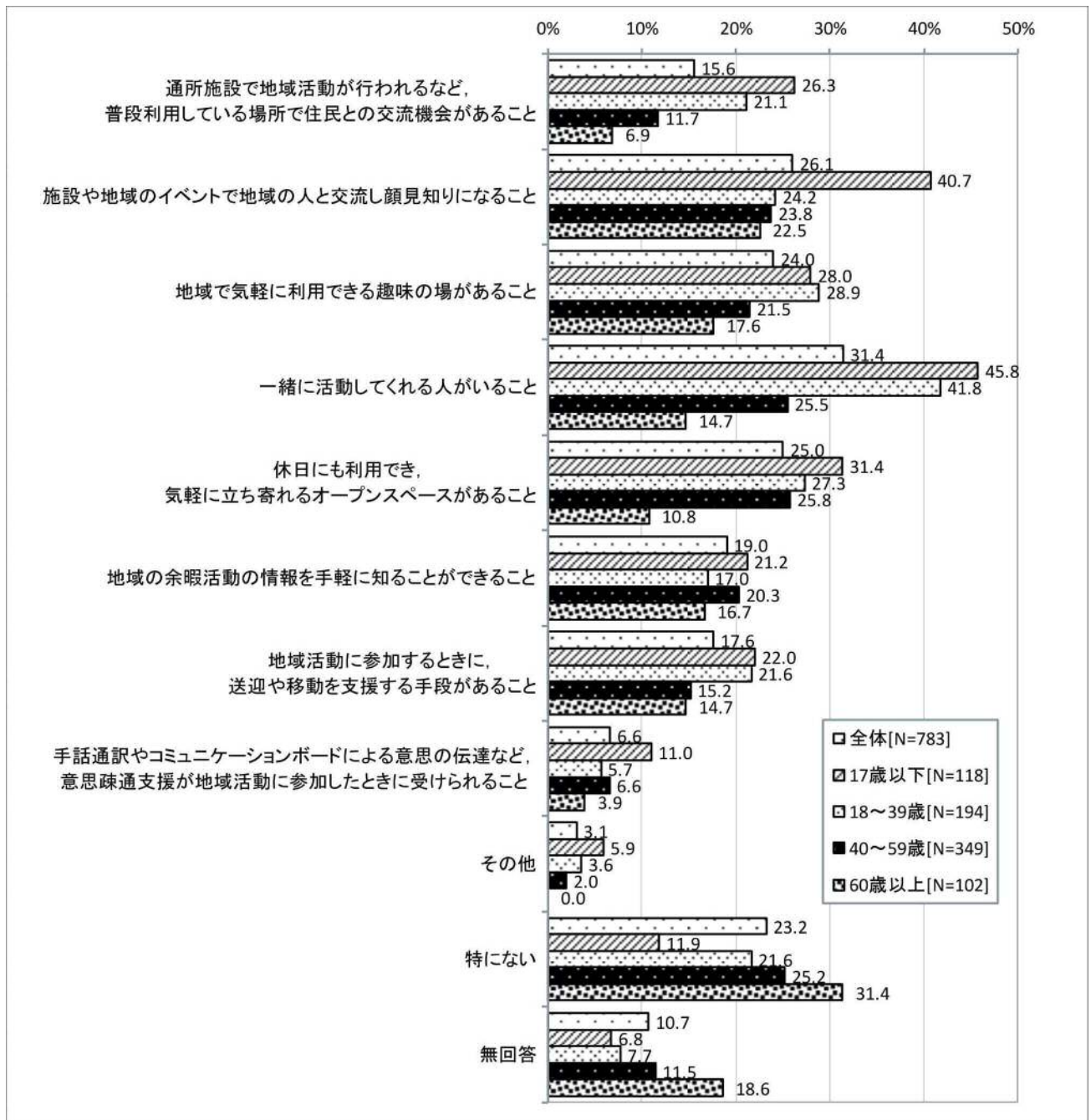
知的障がいのある人は「一緒に活動してくれる人がいること」「通所施設で地域活動が行われるなど、普段利用している場所で住民との交流機会があること」の割合が高くなっています。

図表 104 地域活動に参加するために必要なこと[N=783]（複数回答）



年齢別にみると、17歳以下は「一緒に活動してくれる人がいること」「施設や地域のイベントで地域の人と交流し顔見知りになること」「通所施設で地域活動が行われるなど、普段利用している場所で住民との交流機会があること」、18～39歳は「一緒に活動してくれる人がいること」の割合が高くなっています。

図表 105 地域活動に参加するために必要なこと[N=783]（複数回答）

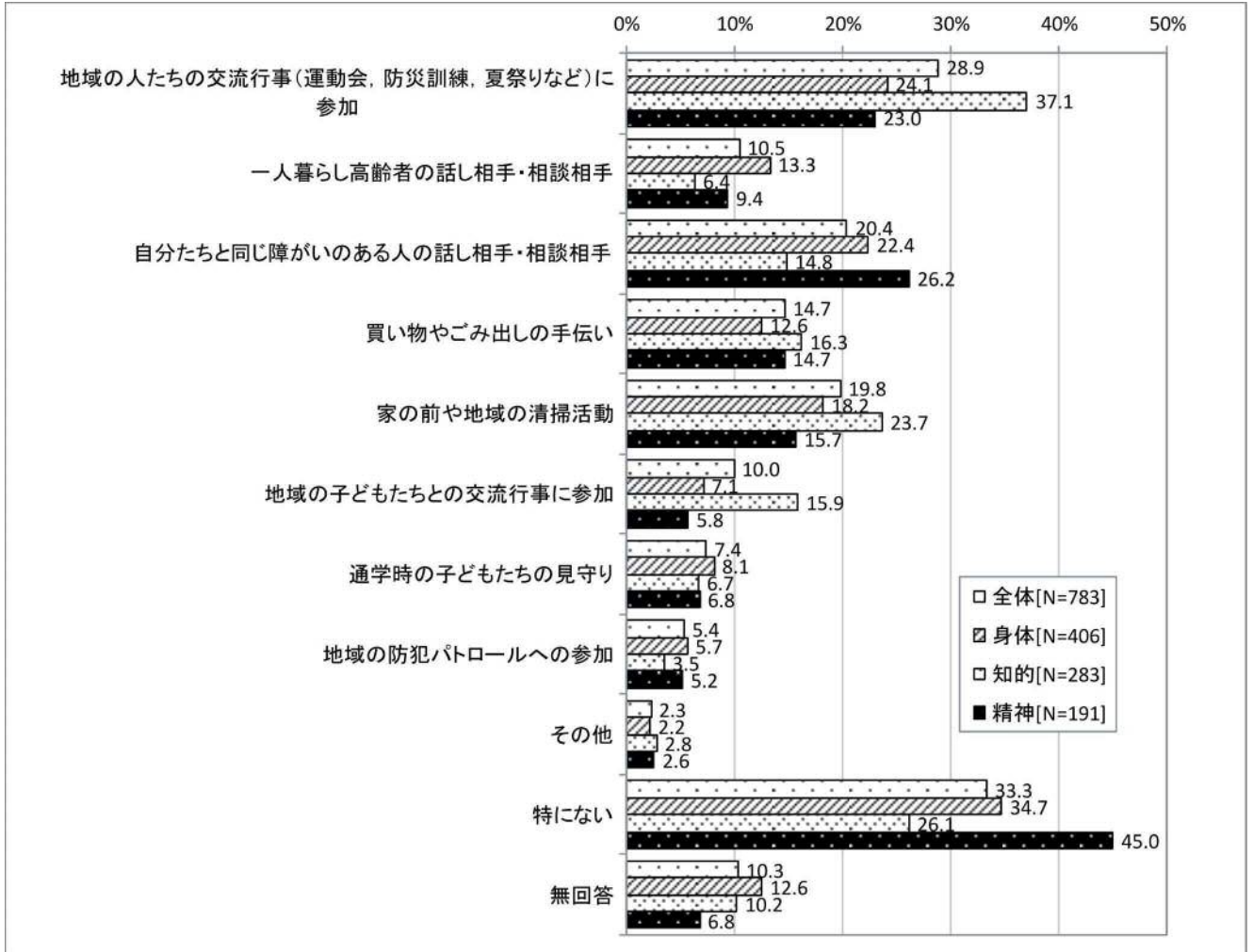


⑤ 協力できそうな地域活動

協力できそうな地域活動は、「地域の人たちの交流行事（運動会，防災訓練，夏祭りなど）に参加」が28.9%、「自分たちと同じ障がいのある人の話し相手・相談相手」が20.4%、「家の前や地域の清掃活動」が19.8%、「特にない」が33.3%となっています。

精神障がいのある人は「特にない」の割合が高くなっています。

図表 106 協力できそうな地域活動[N=783]（複数回答）



年齢別にみると、17歳以下は「地域の人たちの交流行事（運動会、防災訓練、夏祭りなど）に参加」「地域の子どもたちとの交流行事に参加」の割合が高くなっています。年齢が上がるにつれ、「特にない」の割合が増加しています。

図表 107 協力できそうな地域活動[N=783]（複数回答）

